

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 3 月 31 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 101-0047

所在地 千代田区内神田2-7-4 三井ビル3階

評価機関名 株式会社 評価基準研究所

認証評価機関番号 機構 12 - 218
電話番号 03-3251-4150
代表者氏名 代表取締役 谷口仁宏 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	松尾 肇浩	経営	H1501027
	②	讃井 素子	福祉	H2101110
	③	谷口 仁宏	福祉、経営	H0305043
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	株式会社 アイ・エス・シー ウィズブック保育園西五反田			
事業所連絡先	〒	141-0031		
	所在地	東京都品川区西五反田3-8-8 NTT大崎ビル		
	TEL	03-5747-9917		
事業所代表者氏名	園長 岸 恵子			
契約日	2024 年 7 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 11 月 6 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 11 月 20 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 11 月 6 日			
自己評価結果報告日	2024 年 11 月 20 日			
訪問調査日	2025 年 1 月 16 日			
評価合議日	2025 年 1 月 16 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査・職員調査は、WEBでの調査を実施し、携帯電話・スマートフォン・パソコンによる回答を中心とし、紙ベース希望者には従来型の紙による回答も可能とした。利用者調査開始時には、調査の趣旨や手法などに関する詳細な説明と個別のID・パスワードを記した案内状を封緘封筒に入れて全家庭に配布し、職員向けにも同様の案内状を配布した。経営層には各標準項目の自己評価を的確に行うための独自資料を提供するなど、事業所向けの配慮も行っている。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
● 機構が定める部分を公表することに同意します。
○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 3 月 24 日

事業者代表者氏名 ウィズブック保育園西五反田 園長 岸 恵子 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 人権を尊重した保育…自己チェックを3カ月に一度行っている。 2) 子どもの伸びる力を信じて、意識づけや振り返り通して発達に必要な経験を積み重ねていく。 3) 子どもの「感性」「理性」「創造力」を伸ばし、その子らしさが発揮できるようにする。 4) 子どもが自ら「考えたい」「やってみよう」環境を作っていく。 5) 保護者支援
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 人物…物事に対して前向きな姿勢で取り組み、自己研鑽を楽しみ、自身が保育士として人として成長していくことを喜び成長を感じられる人物であってほしい。 役割…グレードに合わせた職務内容に沿って、常に向上心を持って取り組むことが求められる。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ①プロ意識を持ってほしい。子どもはただ漠然と「見守る」「遊ばせる」ことはプロでなくとも出来ることであり、私たちは資格を有する者として安全安心の責任と成長を保障すべく一人一人の発達に合わせた対応が出来ること。 ②「先生」と呼ばれる仕事であることに誇りを持ち、それに相応しい人間性備えていけるよう成長してほしい。

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯40世帯(園児数45名)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査項目は共通評価項目に準拠した。回答は、弊社オリジナルのWEBベース方式(パソコン・携帯・スマホ)で行った。WEBで回答できない保護者には書面の回答用紙を配布する。回答用紙は園経由で弊社宛に郵送してもらい、集計に加えることとする。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

45
40
40
36
90.0

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では、園に対する満足度は「大変満足」が66.6%、「満足」が30.6%の合計97.2%であり、保護者から園への信頼は、非常に高い数値となっている。設問別では、「子どもの心身の発達」「園での活動が子どもの興味や関心を持って行える」「提供される食事」「自然や社会と関わる機会の確保」「安全対策」「保護者へ行事日程の配慮」「職員との信頼関係」「園内の清潔さ」「職員の言葉遣いや態度」「けがや体調不良時の対応」「子どもの気持ちを大切にしたい職員対応」「プライバシーへの配慮」「保育内容の説明」で、90%以上の利用者が満足であると答えている。また、「保育の時間への柔軟な対応」「不満や要望への職員の対応」で80%の利用者が満足であると答えている。それ以外のすべての項目でも高い満足度であり、今後は今回保護者から出された個別意見の対応可能な事柄へのさらなる配慮や説明を充実させていただくことに期待したい。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	36	0	0	0
「はい」が100%という結果だった。自由意見では、「家ではできないような遊びや経験を通して我が子が成長しているのを感じます」「本や図鑑など子どもがすぐに手に取れる状態にあることが役立っていると思う」「様々な遊びの工夫を凝らして頂いていると感じております」などがあつた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	36	0	0	0
「はい」が100%という結果だった。自由意見では、「制作や食育など毎回とても工夫されていると感じる」「絵本など、興味を持って前のめりになって聞いている姿を見て、感じました」「英語のレッスンが継続されていることは、親としても嬉しく思います」などがあつた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	35	1	0	0
「はい」が97.2%、「どちらともいえない」が2.8%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見では、「献立を見るたびにバランスよくおやつまで手作りですいつも凄いなと思います！」「宗教食にも考慮頂いており、大変助かります」「七草粥やハロウィンのおぼけの形のご飯など、時季に合わせた食事を考案されていて、また普段の食事でも「おかわりしたよ！」「と子供からよく聞いているのでとても工夫されていることが分かります」などがあつた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	34	1	1	0
「はい」が94. 4%、「どちらともいえない」が2. 8%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見では、「遠足で見たお花や虫の話を楽しそうにしてくれました！」「限られた敷地であれど、出かけたりすることで工夫を持って保育していただけていると思っている」「定期的に公園や散歩に連れて行っていただいたり、運動会や夏祭りといった行事に関して行っていただき、大変満足しております」などがあつた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	31	3	0	2
「はい」が86. 1%、「どちらともいえない」が8. 3%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が5. 6%という結果だった。自由意見では、「特に突発的な残業でお迎え時間が遅れることになった際に、電話を入れても、快く対応してくださりとて有難い」「仕事から急なスケジュール変更が多いので、いつも柔軟に対応いただき大変ありがたいです」「とても気持ちよく対応してくださって、恐縮しています」などがあつた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	33	2	1	0
「はい」が91. 6%、「どちらともいえない」が5. 6%、「いいえ」が2. 8%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見では、「不安になったことは一度もありません」などがあつた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	33	3	0	0
「はい」が91. 7%、「どちらともいえない」が8. 3%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見では、「土曜日も含めて対応いただき、大変助かっている」「保育参観も対面とwebのハイブリッドにしてくださっているのが助かります」などがあつた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	33	2	1	0
「はい」が91. 6%、「どちらともいえない」が5. 6%、「いいえ」が2. 8%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見では、「学年が変わり子供が少し精神的に不安定で荒れていた時期に、保育園での様子や今後のことについてとても親身にお話をしてくださり感謝しています」「何かあればいつでも話せる関係で、安心して預けられる」「担任以外の先生ともなんでも話せる雰囲気、恵まれた環境だと感じている」などがあつた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	35	0	1	0
「はい」が97. 2%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が2. 8%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見では、「いつも先生方が交代できちんとお掃除してくださっている様子を目にします。子どもたちのために清潔に保ってくださって有難く思っています」「とても綺麗だと思います」「いつも気持ちよく登降園させていただいています」などがあつた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	35	0	1	0
「はい」が97. 2%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が2. 8%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見では、「みなさんとても明るく元気で担任の先生以外の全ての方が子供や親を気遣っていただいている雰囲気がとても心地よく感じます」「職員の方は皆さん信頼でき、安心して預けられる」「まったく不満はありません。挨拶やちょっとした会話など、素晴らしい先生方ばかりです」などがあつた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	33	0	1	2
「はい」が91. 6%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が2. 8%、「非該当・無回答」が5. 6%という結果だった。自由意見では、「とても丁寧にご報告をしてくださいます」「迅速な対応に感謝している」「子どもが怪我（軽傷）をした時に、すぐに電話で報告をもらい、その後の対応（病院へ連れて行く等）についても説明があった。その後の様子についてもしっかりと連絡をもらったので安心できた」などがあった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	25	4	1	6
「はい」が69. 4%、「どちらともいえない」が11. 1%、「いいえ」が2. 8%、「非該当・無回答」が16. 7%という結果だった。自由意見では、「子どもの様子をしっかり見てくれていて、なんでも伝えてくれるので信頼できます」などがあった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	35	0	1	0
「はい」が97. 2%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が2. 8%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見では、「子供の気持ちを汲み取った声かけや提案はとても勉強になります」「子どもの特性をよく理解して対応してくれているのがよくわかります。子どもも先生たち全員が大好きな様子です」「多くの先生が、子供の気持ちを大切にしてくれていると思います」などがあった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	33	1	0	2
「はい」が91. 6%、「どちらともいえない」が2. 8%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が5. 6%という結果だった。自由意見では、「配慮が行き届いていると感じます」「特に知られたいくないことがない」などがあった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	35	1	0	0
「はい」が97. 2%、「どちらともいえない」が2. 8%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見では、「どんな様子で過ごしていたかを話して下さるので助かります」「現在は、以前より分かりやすくなったと思います」などがあった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	30	0	1	5
「はい」が83. 3%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が2. 8%、「非該当・無回答」が13. 9%という結果だった。自由意見では、「基本的に不満はほとんどないが、何かあったときは真摯に対応してくれていると思う」「特に不満も要望もありませんが、そうした場合には対応してくれるだろうと思います」などがあった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	16	10	2	8
「はい」が44. 4%、「どちらともいえない」が27. 8%、「いいえ」が5. 6%、「非該当・無回答」が22. 2%という結果だった。自由意見では、「これまで、特にそう言った場面がなかった」「そういった話をする機会はありませんでしたが、まずは先生方が誠意を持って対応して下さるという安心感があります」などがあった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	園は保育所保育指針と独自の保育手法を用いて子ども主体の保育を目指している 保育の質を高めるうえで、指標となるものは何よりも重要なものとなる。保育所においては保育所保育指針を基本としながら子ども主体の保育に取り組む必要がある。園は保育所保育指針で明記されている3つの視点、5領域、また幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に照らし合わせながら日々の保育の指標としている。また園独自の絵本を中心とした手法は、子どもの根っこを育てることを目的として3つ力(快動、自立、心の安定)と7つの心(自発性、好奇心、探求心、自尊心、親切心、道德観、価値観)を育むことを意識している。		
	子ども一人ひとりの個性を「らしさ」という表現を用いて共通言語として活用している 園が重要視している視点「子どもの可能性を引き出すこと」「最善の環境」を明確にするために、ある一定の認識レベルを統一する必要がある。園は運営会社が確立した独自の認定制度を導入し、新入職員には受講を必須事項としている。それにより子どもたちを見る意識の統一につながるだけでなく、成長や発達の捉え方の専門性が高められている。さらにそれぞれの職員が「らしさ」を追及するために、職員会議では園長が理念や目標を意識した思いや考えを伝えることで、常に保育の方向性を確認しながら進めている。		
	園は健全な運営のため、役割を分担しながら保護者支援に繋げている 日々の運営の中で、起こるさまざまな事案について役割を明確にして、適切に対応している。まず園の守るべきルールについては、入園の際の重要事項説明書を用いて行われているが、日々生じる案件は専門的な役割を意識しながら行う必要がある。緊急性のある件については園長が早急に対応し、後日職員の連絡、共有するような形をとっている。それ以外の軽微な保護者対応においては信頼関係がある担当が行う。保護者の意見や相談等は職員というチームで原則対応することで、利用者からは丁寧な対応として受け止められている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリー1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリー2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリー2の講評 園は地域の子育て状況を把握しながら、園としての取り組みの方向性を定めている 園の運営や取り組みにおいて、一方的な姿勢は必ずしもよい結果に繋がるとは言い切れない。何よりも大切にしなければいけないのは、受け手である子どもたちと保護者の満足度である。そういう意味では、園長は地域の特性として保護者の就労状態や育児に対する考え、抱く不安の傾向などを事前に捉え、園が取り組むべき方向性の判断基準の1つにしている。また、保護者の心情を理解することは、子どもの自身の心情にも現れるとして、徹底した子どもの理解と職員による支援を継続しながら、日々、保護者との関係性を築いている。 園は職員の意向並びに利用者アンケートを通じて、満足感の高い取り組みを行っている。 園はさまざまな機会を通じてアンケートを実施し要望を聞き、その結果を活かす仕組みを確立している。まず、ただ意見を聞くという役割ではなく、アンケートには園の方針と保育の取り組みの理解の程度やズレを見極める役割もあると考えている。だからこそ結果を踏まえ保護者会の内容を再度検討し、より伝わりやすい納得性の高い取り組みへの追求が行われている。また職員から「コーナー保育に取り組んでみたい」という意向を受け取り組んだ事例もあり、保護者や職員にも話を聞く傾聴的な姿勢を常に心掛けていることがそれぞれの満足度に活かされている。 保育者は目指す目標を明確に意識し、さらに保護者と共に子どもの成長を支え合っている 園長は職員が安心して業務に向き合い、保育を楽しむことを目的として、密なコミュニケーションを図りながら自己の役割の明確に意識できるよう働きかけている。具体的には、新入社の職員に対して子育てに関する専門的な学習の場を設けることで業務を明確にし、安心して入職できる環境を整えている。また、保護者に対しても職員と同様に、育児に関する研修を進めている。保育者と保護者とが双方に学び合うことで、その後「さくせん会議」と称して、職員と保護者とが共通認識を深め、子どもの「らしさ」の追及が日々行われている。		

3 経営における社会的責任			カテゴリー3
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

	カテゴリー3の講評
	園に対する苦情や要望は真摯に受け止められ、丁寧に保護者に説明している 園は苦情や意見に対して、速やかに対応できるよう、苦情解決責任者と苦情解決受付担当者を定めている。意見や苦情などは、保育者との日々のコミュニケーションの中から推察できる側面もあると考え、登園降園の時間を大切にしている。また、保護者アンケートの結果からも保護者からの信頼度は高いことから、日々の丁寧で寄り添う姿勢が苦情に対する予防となっていることが伺える。さらに、保護者からの要望や意見を受けた際は、職員で傾聴の姿勢を心がけながら、最終的には園の方針を説明し、理解へと繋げるための機会として活かされている。 園は研修や情報の共有、対策の具体化を進めながら虐待や不適切保育の予防に努めている 近年、保育者による子どもへの虐待や不適切保育の報道が後を絶たない。そこで園では、日々の保育に関する問題意識を高めながら、職員への周知と対応の徹底を図っている。報道などで虐待などの事案が生じた際は、毎月行われる会議や情報共有の場において、問題意識の共有と対策が講じられる。また、緊急性の高いケースを想定して、毎年職員はさらに人権擁護チェックリストを用いて自己を振り返る機会を持っている。この組織全体としての動きは、一人ひとりの意識を高めると同時に、意識すべき情報の共有システム化に繋がっている。 コロナ禍で失われた人との交流の機会を増やし、豊かな社会の実現に向け取り組んでいる コロナ禍以降、地域連携の機会が著しく減少している中で、園は積極的にさまざまな活動を取り入れている。学校との交流や中学生に対する職場体験提供にも力を入れている。地域に対する貢献はもちろんのこと、保育という仕事の価値や将来像も交流を通じて感じてほしいという願いがある。また、少子化の時代における兄弟姉妹同士の関係性の減少は顕著である。それを補完する役割も園は担っていると考えており、子育て家庭・卒園児など多くの方を夏祭りなどに招待し、地域の人と人が豊かに関われるような社会性を維持する装置としての役割を意識している。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
園は想定されるさまざまなリスクについて検証し、具体的な対策を講じている 園は日常の生活の中で起こる可能性がある地震、火災等に対するリスク管理に取り組んでいる。毎月1回は子どもを安全に避難させることができるよう、定期的にさまざまな災害を想定した避難訓練が行われている。また、職員に影響するようなリスクに対しても事前配慮を意識している。例えば、台風など予測できる事案については、職員の時差出勤・退勤など調整を行っている。災害時の事後対応の意識に加え、事前対応意識が高い。感染症対策においても看護師会で事案の共有を行い、経験を共有した具体的な対応策を学び合っている。		
園は個人情報保護について取扱いルールを定め、保護者へ説明を行っている 園で扱う個人情報は、重要な書類であるため事務室の鍵付き書庫で項目別に管理している。デジタルデータの管理については、不特定多数が使用するPCやタブレットは権限設定の基で適切に管理している。また子どもの情報の使用については、その利用目的などは重要事項説明書を用いて説明し、同意書もらっている。さらに、行事などの際の写真や動画については、園児の日頃の感じてもらう機会として許可している。しかしながらSNSなどへの投稿などは、安心安全な園の運営の妨げになることから遠慮してもらうよう伝えている。		
園は日々のコミュニケーションを通じて、安心できる保護者支援へとつなげている 日々の業務において虐待事案などに対する適切な対応は必要不可欠であり、園内における迅速な対応が求められる。しかしながら、園では生じるリスクへの対応だけでなく、生じる前からその可能性をできる限り最小限にする取り組みに力を入れている。具体的には日々の登園降園や保護者会、相談の場で、保護者の育児に関する不安の芽を早い段階で解消できるよう、保護者に対して傾聴、助言、共感などを意識して保育者は対応している。そのように日々のコミュニケーションで生まれた家庭の状況に関する情報は職員同士で共有され、適切な支援へと繋げている。		

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当	
サブカテゴリー2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当	

	カテゴリー5の講評
	園長は業務的な指導に加え、一人ひとりの頑張りや長所にフォーカスし信頼を得ている 園が求める保育士像を明確にすることは、職員にとって役割を意識し、安心して日々の業務にあたることに繋がる。園では研修計画を通じてそれぞれの課題に応じた研修が受講できるように配慮している。またでは事前に記入したシートを用いて面談を行っている。園長自身は「楽しい職場環境」を整えることを意識して、一人ひとりの個性の尊重を意識している。個性を見る場合、捉え方次第では長所になる部分、短所になる部分があることを前提とし、できる限り短所をポジティブに変換し、一人個性を引き出すことに注力している。 園では年2回の自己評価を行い、役職基準を明確にすることで職員の定着を図っている 当園は職員の定着率が非常に高く、安定した職場環境が整えられていることは高く評価すべきことである。休暇の取りやすさや相手を思いやる尊敬の心を意識することにその理由はあると園長は言う。さらに、日々の業務において園が目指している保育方針とのずれをできる限りなくすため、年に2回の振り返り自己評価制度がある。その中でグレード分けされた業務の確認や日々の業務と目指す目標とがフォーカスされることも、職員の定着に大きな影響を与えている。また、園長自身の職員一人ひとりに寄り添う姿勢が、園における家庭的な温かさに繋がっている。 園長は保育者の専門性を高める手段として日々の関わりを重視している 園長は保育施設で働く職員に対して専門性を高め、より人間性を意識した取り組みを重要だと考えている。園が目指す保育の具現化のため、一人ひとりのスキルの向上の先にはチームワークが欠かせないがその秘訣は日々のコミュニケーションにある、と園長は考えている。「自分のやってほしいことを他者へしてあげること」「困っている人がいれば寄り添うこと」など、人間として当たり前と思われる行為を当たり前に行うことがチームワーク形成に繋がっていくと信じている。そのような人柄が園の中に溢れ、母親のようなサポートが日々行われている。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
		サブカテゴリー1(7-1)	
		事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1		事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
		前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
		園の課題としては、まず運営的な側面を挙げている。まず安定的な運営のためには継続的に定員を充足する必要があるとし、地域に認知されて選ばれる保育園を目指している。そのために老人ホームや他園との交流を行い、町内会などにも積極的に参加している。その理由の1つとしては、コロナ禍で交流の機会が減少したことが大きい。その課題を受け、活動の幅を広げてことにより、園見学、保育体験には80件ほどの参加もあり、入園へのつながりが見られてきた。 さらに選ばれる保育園を目指し、きめ細やかに保護者対応を行い、子育て相談などの取組の成果は、行事後のアンケートや第三者評価結果(大変満足66.6%、満足30.6%、合計97.2%)で実感できているという。	
目標の設定と取り組み	☐ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☒ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評			
		コロナ禍で失われた地域交流の減少を体験した後では、改めて地域との接点子どもたちの成長、発達にどれほど重要な要素であるか、また子育て中の家庭が園と関わりを持つことにどれだけ大きな影響があるか、園は再認識している。園見学、保育体験での参加が80件となり、積極的に取り組んだ結果が成果として表れている。また、このような結果に満足することなく、ホームページ等でも園舎の紹介動画、行事への招待、体験会の継続的な利用の推進、SNSのアカウント開設、参観のオンライン開催など新たな挑戦を続けている。特にオンライン参観は、仕事で参加できない保護者だけでなく、親族の方へ向けた取り組みでもあり、園の良さ、強みをアピールする機会を強化している。これから選ばれる園を目指す上で、有効な手段となるものである。課題から具体的な取り組みを検討し、さらに新たな挑戦を行う姿勢は、高く評価できるポイントである。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

園は、主に4つの課題を意識している。①施設内に併設している発達支援施設との連携 ②地域との交流 ③園のストロングポイントのアピール ④運動会の実施、である。その理由としては、開園がコロナ禍であったことから、さまざまな行事や取り組みがほぼない状態であったことである。主な取り組みとしては、まずは話し合いや子どもの発達の共有を通じて保育内容の充実、質の向上を図った。また交流の機会の減少を受け、年間を通じて保護者支援の計画を立案し、地域に対して子育て支援の行事の周知を図り、できるかぎり園の保護者と地域の子育て家庭に対しての情報の発信を行ってきた。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園は、課題を意識した取組の具体的方法として、①施設との連携はまず管理者同士の情報交換、方向性の確立などを行うことが重要であるとして、協議の場を予定している。園としても施設の特徴としてアピールしていきたいという思い、利用者としても利便性を感じる実感があることを受け、実務者同士の連携を期待する。②地域の交流はまず利用者本位の取り組みとして、保護者に対しては丁寧に寄り添い、日々のコミュニケーションを図ることを第一に考えている。子育て家庭に対してもできる限り、ニーズに沿った形で研修などを計画している。園としては事業計画の大きな方針の1つに③地域の子育て支援事業を掲げ、日々邁進している姿勢は社会に対する貢献意識の高さとして伺える。最後に園の魅力として特徴的な取り組みをもっと理解していただき、安心して施設を利用してもらえるよう、ホームページやさまざまな手段を通して周知することに大いに期待をする

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリー1の講評			
主任・リーダー層がSNSやブログなどで情報を園内外に積極的に発信している 本園は利用者や利用希望者のニーズを考え、HPのみならずSNSやブログを通して、園の情報を発信している。発信は主任やリーダー層が中心となっており、日常の保育だけではなく、トピックは「給食」「衛生管理」「安全な環境づくり」「子どもの人権の尊重」など利用者が安心して子どもを預けられると感じてもらえるような内容を心がけている。子どもの様子や園の取り組みがよくわかると口コミが広がり、利用者だけではなく、利用希望者、未来の保育士に対しても園の良さをアピールする有効な情報提供となっている。 保護者のために改善が必要だと感じたことを前もって計画的に形にする実行力がある 職員は保護者とのコミュニケーションを日ごろから大切のしており、その関わりの中から現在の状況を見直し、どうしたら保護者、子どもにとって保育がよりよいものとなるかを職員間で常に模索している。職員たちには、改善点を見出し、言語化したものを早期にかつ計画的に実行していく力がある。保護者の声や思い、悩みを、園が一丸となって受け止めようという姿勢の一端が垣間見える。 見学者の対応をリーダー層が行うことで、職員育成と園全体の質の向上に繋がっている 利用を検討している見学者の対応は、主に、主任以下のリーダー層が対応を行う。本園では年功序列ではなく、仕事の状況に応じてアップグレードする“グレード制”を導入しており、園見学はグレード5の職員が対応し、そこにグレード4の職員を同行させ対応を学ぶようになっている。見学対応は、利用希望者の気持ちに寄り添いつつ、園における保育の内容や園の良さをアピールする場である。リーダー層が系統的に園見学を行うことで、職員全体が同じ方向性を持つことが可能となり、職員の意欲向上と質の底上げにも繋がっている。			

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
アルバムは入園時から作成を開始し子どもの成長を記録、卒・退園児に渡している 本園は、入園時より子どもの個人アルバムを作成している。このアルバムには入園からの子どもの姿や成長を、写真や手・足形、身長体重とともに記録し、担任と保護者からのメッセージを添えたものを年度別に作成し、卒園・退(転)園時にアルバムにして保護者に渡している。保育者にとっては手間のかかる作業と思われるが、子どもの成長を記録し、その成長を保護者と一緒に喜びたいという思いにあふれた取り組みである。保護者からは、入園からの子どもの育ちを一年ごとに振り返ることができ、良い思い出になったと大変好評である。 保護者の不安を軽減するため慣れ保育を行う中でのコミュニケーションを大切にしている 新入園児の入園直後の不安やストレスを少しでも軽減できるよう主任やリーダー層がクラスのサポートに入り、子ども一人ひとりの様子を見守りながらいていねいに慣れ保育を行っている。保護者とのコミュニケーションは密にし、入園後の不安や悩みを受け止め、家庭での様子を参考にしながら、子どもが園と家庭で同じリズムで過ごせるよう配慮し保育を行っている。本園のていねいな対応と、日々のコミュニケーションの積み重ねが保護者との信頼関係を築く上で大切であるとの一貫した対応が、保護者との信頼関係を早期に築くことを可能としている。 重要事項に記された内容の理解が保護者間にも深まるような対応を期待したい 本園は入園時に重要事項を説明し、同意書を得て保育を開始している。予防接種後の家庭保育のお願いについても重要事項に記されているが、過去に接種後登園し預けようとした保護者がおり、結果として保護者の都合を優先し保育を行ったというケースがあったという。予防接種後は子どもを安静に保ち、体調の悪化があった際はいち早く対応するために家庭保育が必要であり、このルールは子どもの健康を第一に考えて決められたものである。子どもの最善の利益を守るためにも保護者の理解を促進するような継続した情報発信と、原則に基づいた対応が望まれる。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
保護者や子どもの様子に異変を感じた際は、迅速に解決する仕組みができています 日々の保育の中で、子どもや保護者の様子に異変を感じた時は速やかにリーダー、主任に報告・相談する流れができており、園長の助言のもと、職員が保護者に対し、面談や言葉がけを行いながら解決・改善につなげている。また、その内容を全職員が共有できるように、「なんでもノート」を活用し、出退勤時に全職員が目を通して内容を理解するようにしている。この流れと取り組みにより、園全体で子どもや保護者に寄り添いながら、その状況・情報を全職員で共有し、共に解決しようとする風土が醸成されている。		
指導計画はクラス会議などを通して作成し、適切に記録・振り返りが行われている 本園はクラス会議、リーダー会議、職員会議等でクラスや個別の子どもの様子や課題、疑問などを抽出し、指導計画を作成している。また提出された計画の内容は、子どもを集団の一人としての存在としてだけではなく、一人ひとりを見つめ、個性、発達を多角的に捉えたものとなっているかを主任、リーダー層が確認し、丁寧に作成されている。また月末のクラス会議では主任もしくはリーダー層が同席し、一緒に指導計画の振り返りや見直しを行うなど、作成から振り返りまでが適切に行われ、注意深く取り組まれている。		
リーダー層は子どもの姿を否定的にとらえず肯定的な言葉に置き換えて表現している 主任・リーダー層は職員に対し、発達記録などにおいて子どもの姿をネガティブにとらえず、細かい言い回しを肯定的な表現に置き換え捉えるよう指導やアドバイスを行っている。この姿勢は記録だけにとどまらず、日頃の保育においても子どもの行為や出来事を否定的に捉えず、その背景にある子どもの思いなどを見つめ、子どもを理解しようと園では取り組んでいる。この取り組みを続けることで、子どものマイナスの行為の裏にある心理に気づくなど、子どもの内面をていねいに見ようとするといった変化が職員の意識にも現れ、職員の質の向上に繋がっている。		

サブカテゴリ5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当
サブカテゴリ5の講評		
園は子ども家庭支援センターなどと連携しながら虐待などへの対策を行っている 園では子どもたちの健全な育成に向けて家庭とさまざまな取り組みや連携を図る一方で、虐待や不適切な育児が生じるケースも想定している。園からの通報だけでなく、保健センターから疑いの可能性を連絡された場合、職員間で支援の在り方を検討し、子どもの状況、保護者の様子を確認し、支援センターと連携を取る。そのような事案においても迅速に対応できるよう、区の研修や園内研修を通じて関連ケースについて理解を深めている。また、不適切保育や事故や事件などが報道された際にも、自分たちで対策を考えたり、注意喚起を行うなど意識を高めている。 日常の活動や遊びで子どもたちの選択権を広く認め、子どもの権利を尊重している 子どもに関する情報の取り扱いについては、入園時に重要事項説明書を使って保護者に説明し、同意書をとっている。また、園では子どもの権利、子どもの意思を尊重する日常の取り組みとして、遊びの選択は子ども自身に任せている。例えば、子どもの興味、関心があるおもちゃを選択できることや、「する、しない」などの活動の選択も認められている。日々の活動の中でも、製作に必要な教材は多彩な色を、絵を描く画材もクレヨンか絵具かなどさまざま準備している、日々の保育活動の中に、子ども人権を尊重するような工夫が図られている。 子ども自身の意見を表明を大切にすることで食事の時間を豊かなものとしている 保育の中でも「子どもの権利条約」にある「意見の表明・参画」が重要視されている。園では日々の生活や遊びの中で子どもの意見を聞き、自己決定を尊重した活動を意識している。また、食事に関しても苦手な食材がある場合は「どうする、減らす?」と問いかけたり、フルーツなども自分のタイミングで食べることを認めている。園が目指す「人権を尊重した保育」という考えを基にして、日々の遊びや生活の中に子ども人権が反映されている点は、高い評価に値する。今後、さらに子どもの権利を尊重した保育を継続していくことに期待したい。		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
園は「With Bookプログラム」を活用し、質の高い保育の維持を目指している 保育は、保育所保育指針に基づき、子どもたちとともに創造していく必要がある。園はその導入の1つとして、絵本を重要なツールとして捉えている。具体的な考え方として、絵本から活動が生まれ、活動から絵本に繋がる、その相互作用の中に園が目指す「らしさ」「個性」が輝くという考えが基本となっている。園はそのような思いで、子どもの人権を尊重した支援、創造性の高い活動の展開を意識しながら保育を行っている。さらに、具体的なプログラムは保育のブレを修正するようなガイドラインとしての役目を担いつつ、保育の質の維持に役立っている。 運営本部は各種マニュアルを整備し、現場で活用しやすいよう工夫している 園には事故・ヒヤリハット対応マニュアル、虐待などハラスメントに関するマニュアル、安全に関わるマニュアルなど各種マニュアルが整備されている。これらは本部が中心となり系列園で統一した形で作成している。また近年、マニュアルと現場とで乖離するようなケースがあり、管理者や担当者を定め、見直し、修正が図られている。今後は定期的に見直しが行われ、現場にとって有効性の高いものになっていくことは間違いなく。マニュアルとは与えられるものではなく、現場の子どもの姿を観察して生まれるものであるという考えで、取り組まれている。 サービス向上のための業務的な標準化から、個性重視型への転換を図っている 園では業務の標準化の取り組みとして、さまざまなマニュアルを作成したり、業務の際に着用する制服などを導入している。現在は統一したルール、規程の基で業務を行っているが、近年は現場や社会情勢に沿った形へ、標準化やマニュアル化が変容しつつある。運営マニュアルにおいては、個性の重視の観点から制服の廃止と髪色の自由化が現場の意見として取り上げられ、今後、試験的に取り組まれるという。職場においての働きやすさとは与えられた環境ではなく、働く職員が自ら改善していく中にある。そのような考えの基での変革後に期待したい。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐非該当
評価項目1の講評	
子どもを社会に巣立つ一人の人間として、丁寧に向き合う保育を実践している 本園は子どもをありのままに受け入れ、社会に育つ一人の人間としていねいに向き合う保育を実践している。保育士の関わりでは否定的、強い言葉がけをしない。先走ったサポートはせず、子どもが自身で挑戦しながらできたことを認め、自信につながる言葉がけを行っている。集団においても友だちを意識できる集団遊びを取り入れながら、一人ではできない楽しさを感じ、相手の存在を嬉しいと思える経験を積み重ねている。こうした取り組みにより子どもは自己肯定感を持ち、他者を受け入れながら自信をもって前に進もうとする生きる力を育てている。 配慮が必要な子どもが安心して過ごせるよう、併設の施設と連携している 本園は、同じ建物内に児童発達支援スクールが併設されており、玄関を共有し、運営している。園児の中には両方の施設に在籍する児もあり、支援の仕方についての意見交換が日常的に行われている。発達支援について専門性を持った職員に相談ができることで、園職員が悩んだ際には、専門的な関わりやアプローチについてアドバイスを受けることもできている。また、園内では、特別支援児には加配を置き、発達過程に配慮しながら子ども一人ひとりが安心して集団の中で成長できるよう、生活面・環境面での配慮を行っている。	

2 評価項目2		
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
食への意欲を育むため栄養士と連携し、ウィズブック絵本を活用した食育を実施している 食事は楽しい時間と感じられるよう、食事の場の雰囲気や食事を大切にしながら、食べることの喜びや意欲が育つよう言葉をかけや援助を行っている。本園は廊下から厨房の様子が見える構造となっており、食事を提供してくれる栄養士の顔を見ながら食事を楽しむに子どもの姿が印象的である。本法人の特徴である絵本と絡めながら行う食育は、年齢・発達・ねらいに応じて保育士と栄養士が連携して行っており、食への関心がより深まる内容となっている。さらに絵本の導入だけでなく、食事から絵本に繋げる相互的に取組が食に対する創造性の芽を育てている。 保育者は子ども一人ひとりの生活リズムに配慮した保育を行っている 本園では、乳児においては生活リズムや体力等を見極めながら、園での睡眠(午睡)時間を一人ひとり臨機応変に設定している。また、幼児は年齢によって午睡時間を少しずつ減らしている。具体的には、年長児は就学に向けて子どもの様子やタイミングを見ながら午睡を無くしてくなど、子どもの発達や年齢に応じたふさわしい生活リズムを整えている。そのような応答的な関わりが一人ひとりの情緒の安定に繋がり、生活の中でも見通しを持った自発的な姿を多く見られた。子どもの権利を意識した取組であることは、園が大切にしている思いに繋がるものである。 子ども一人ひとりの基本的な生活習慣が身につくよう丁寧に保育を行っている 本園は0歳児クラスから、おむつ替え時には、子どもに「ズボンをおろしますよ」などの言葉がけしながら保育を行っている。これらの言葉がけを通じて、子どもは着脱の手順や自らを衛生的に保つことを学んでいる様子だ。この0歳児からの丁寧な言葉かけの積み重ねは、幼児期において基本的な生活習慣のスムーズな自立に繋がっていくものであるため、今後も子どもたちに対する丁寧な言葉かけを続けることに加え、丁寧さが保育者からの行動の促しとして強すぎると、子どもの自主性を損なうこともあることから、丁寧さと応答性をさらに高めてほしい。		
3 評価項目3		
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		
評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
保育士は子どもの主体性を尊重するため、生活と遊びの環境を整えている それぞれの保育室では、遊具を収納する棚や本棚から子ども自身が自由に選んで遊べる環境を整えている。また年齢に応じて、遊び込めるよう、手に取る遊具も子どもの人数に適した数が用意されている。また、遊ぶスペースを遊びの特性に沿ったコーナー分けすることで、子どもが1つの遊びに集中できる環境を整えている。絵本コーナーも、子どもが自由に選ぶことから絵本の世界観に子どもが集中できるよう環境を整え、各保育室が年齢や発達に配慮し、子どもが主体的に遊べる保育環境となっている。保育室から穏やかで楽しい雰囲気が漂ってくる。 保育士は子どもの発語を大切に受け止めながらふさわしい応答を心掛けている 本園の保育士は、日々の生活の中で普段から声のトーンや表情を意識しながら、子どもに対して丁寧な言葉遣いをするよう心掛けている。また、子どもの発語に対しふさわしい言葉で丁寧に返事し、声の大きさや子どもの目線の高さに合わせるなどの配慮がなされている。子どもたちは、保育士からたくさん言葉を吸収していくため、保育士の発する言葉は子どもの成長に大きく影響を与えるものとなる。本園の温かく安心を与える雰囲気は、園全体で日頃から子どもの問いに丁寧に答え、応答している中で育まれているものだと感じる。 園では「その子らしさ」を尊重した製作・表現活動が展開されている 園で取り組む制作や絵画、表現活動については、「その子らしさ」を認め、子どもの感性が引き出されるよう保育を行っている。この取り組みにより、子どもは自由にのびのびと自己を表現することに繋がり、さらに個性が際立つ表現が可能となり、豊かな感性を育む内容となっている。製作活動だけでなく、「その子らしさ」を認める保育は、子どもの自己肯定感を高め、主体的に物事に向き合おうとする心情を育むことにも繋がっている。「その子らしさ」を育む保育を今後も園全体で継続し、質の高い実践を続けてほしい。		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		☐ 非該当
評価項目4の講評			
行事は子どもと一緒に準備をし、事前活動を大切にしながら取り組んでいる 保育士は、子どもにとって行事が大人主導のイベントとならないよう、子どもと一緒に行事を準備をし、行事につながる歌を唄うなどしながら行事への雰囲気づくりを行っている。コロナ渦では密を避けるため行事が中止になったり、形式を変更したり、多くの保育園が行事の在り方そのものを見つめ直す機会となったが、本園も同様にコロナ後の今を見つめ、行事を考え、実践している。今後も子ども主体の行事となるように、子どもの意見や考えを尊重した行事の在り方を模索し、今後も引き続き取り組んでほしい。 行事は結果だけに着目せず、過程を大切にしながら子どもの自信に繋げている 園は行事を、その経験を通しての子どもの成長に着眼し、過程を大切にしながら、子どもの自信に繋がる取り組みと位置づけている。「行事を通して育つ」ことができるよう、企画の段階から子どもが中心となってアイディアを出し、保育士がまどめながら形にしている。子どもが主体となってつくる過程ではさまざまな意見が飛び交うが、話し合う中で相手の考えを聴き、互いに認め合う姿が見られるようになる。それが形となった行事は達成感が高く、子どもがひと回り大きく成長したと感じられる。大変貴重な機会の創出である。 行事後の保護者アンケート行い、職員間で振り返り次回の行事に繋げている 本園は行事後保護者アンケートを実施し、保護者の思いを参考にしながら、職員間で振り返りを行っている。振り返りを行う際には、次回に繋がるより良い形をイメージし、ポジティブな態度で話し合っている。子どもを肯定的に見つめる本園の姿勢は、こうした職員間での話し合い中においてもポジティブに物事を捉える姿勢として現れており、この園の一番の良さであると感じる。この土壌が生み出す自己肯定感と成長を大切にしながら、これからも話し合いを大切に、次回に繋がる振り返りを通して、さらなる質の向上を目指されることを期待したい。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		☐ 非該当
評価項目5の講評			
職員間の引継ぎは丁寧に行い、一人ひとりが落ち着けるよう環境を整えている 保育時間の長短に関わらず、本園では職員間での引継ぎをしっかりと行い、落ち着いて生活できる環境を整えている。生活と遊びの中で静と動の活動をバランスよく取り入れながら、子どもが楽しく過ごせるようにすることはもちろん、人数が減っていくことで子どもがさみしさを感じないよう保育士と1対1の関わりも大切にしている。遅い時間帯においては補食や夕食の提供を行うとともに、水分補給にも十分気を配っている。保育士は子どもの心を予測し、その心に寄り添った空間的・人的環境に配慮した環境構成を行っている。 子ども自らが興味、関心のある遊びを選ぶ環境が情緒の安定に繋がっている 本園は、ひとり一人に丁寧に応答する姿勢が特徴的である。その結果、落ち着いた生活が保障され、遊びと食事、午睡などの生活の切り替えも非常にスムーズである。また遊びの環境でも、子どもの興味・関心に応じたおもちゃなどが十分に準備されている。このことから子どもたちは遊びに夢中になり、長時間の保育時間でも飽きることなく、生活と遊びがうまく組み合っている。また園舎の作りも、廊下を通して別の保育室の様子を伺えることから、さまざまな刺激に溢れた環境がさらに飽きさせない要素となっている。 保育士の引き出しをさらに増やすためにリーダー層による積極的な指導に期待する 子どもたちの発達をさらに促すために、保育者の支援とスキルアップは欠かせない。園では保育スキルの差により、遊びの工夫がうまくいかない職員のために、どのようにアドバイスをしていくかが課題となっている。現在、職員会議などで具体的な遊びの提案を行い、一人ひとりのスキルを上げ、保育の引き出しを増やす取り組みを指導者層は検討している。一日の時間の経過とともに、保育士の人数が少なくなる時間帯において、どの保育士も子どもが安心して楽しくすごせる遊びと環境が整えられるよう、今後の職員の指導に期待したい。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
保育士と栄養士が連携、協働し、食に対する取り組みを積極的に行っている 本園では毎月の給食会議において、保育士と栄養士がともに子どもの食事の様子や課題、嗜好などを共有している。このため、課題に対し同じアプローチを持って連携し、子どもの成長を支えることを可能としている。また、栄養士はホワイトボードを活用し、子どもや保護者に向けて、季節の食材や栄養素の働きの情報発信し、食育で行った内容を保護者に伝えている。また行事食においては、日頃から苦手な食材、残食などの把握をしていることを活かして、子どもたちが本当に楽しく食べる工夫をしている。 買い出しや野菜の栽培などを通し、食についての関心を深める取り組みを行っている 本園は月に一度、栄養士による食育活動の時間を設けている。例えば、近隣のスーパーに出かけ買い物を行い、たくさんの食材を知り、食に携わる人との関わりを持つ取り組みを実施している。★ 子どもも大人も食についての関心がさらに深まる、良い取り組みといえるだろう。 多種多様な食文化、特性を把握し宗教食・アレルギー食への十分な配慮に期待する 宗教食やアレルギー食は、誤食を防ぐためのガイドラインを基にさまざまな取り組みを行っている。本園では、その取り組みの一環として、現在、色別のトレーに食器を乗せて提供している。しかし、誤食を予防するためには、加えて宗教食やアレルギー食の子どもの席にも配慮が必要であろう。今後は専用席を設けるなどして、誤食による事故を未然に防ぐためのさらなる取り組みに期待する。しかしながら安全性を意識するあまり、孤食にならないような楽しい食空間の浸透は園の特徴といえる。その機能を存分に活かしてほしい。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
看護師による保健指導を定期的に行い、健康や安全に対する関心を高める取り組みがある 本園は看護師が園児に対し定期的に保健指導を行い、うがいや手洗いの仕方などを指導している。また、4・5歳児を対象に、絵本を活用してプライベートゾーンについての話をし、子どもたちが体の大切さを知る機会をつくっている。この活動を通して体の大切さを知り、子どもたち自身が、自分を守ることの大切さを学んでいる。また、日常の保育では、戸外に出る前に交通ルールの確認をしたり、公共の場でのマナーや在り方も伝えており、安全についての関心が深まっている。専門性を生かした取り組みを今後も継続してほしい。 3か月に1回看護師によるSIDS訓練を実施し、その予防に努めている 入園前の面接で、保護者から子どもの寝方・体勢についてヒヤリングを行い、特にうつぶせ寝の習慣がある子どもに対しては園での対応を説明している。園では看護師が主体となり定期的にSIDSの対応や救命蘇生の訓練を行い、職員間でその対応の重要性を共有し、対処の仕方を学んでいる。どのような状況においても職員全員が対処できるスキルを身につけることを目的としており、この取り組みから園全体で子どもの命を守ろうとする思いが伝わってくる。今後もさまざまなテーマを設定し、子どもの命と尊厳を守る学びの機会を増やしてほしい。			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
保護者同士が交流する機会を大切にしたり取り組みを行っている。 本園では年度初めの懇談会を遠足方式にし、レクリエーションを行いながら保護者同士の交流がより楽しいものとなるよう工夫し実施している。運動会でも、保護者同士が交流できる競技を設定し、保護者同士が楽しんで交流できる機会をつくっている。また、保護者会では家庭の悩みを共有する時間を作り、保護者同士が共感したり、他の保護者に経験をシェアする場を設けている。これらの交流は、保護者たちが子育てを楽しんでいると感じ、悩んでいるのは自分だけではないと気持ちを前に向かせ、子育てを行う助けとなっている。 お迎え時には日中のエピソードを必ず伝え、子どもの様子が伝わるよう工夫している 送迎時の保護者とのコミュニケーションを園全体で大切にしており、お迎えの際には担任以外の職員も引継ぎ内容を確認して、その子のエピソードを必ず伝えるよう、対応を徹底している。子どもの園での様子を、日々、丁寧に伝える園の姿勢は保護者に安心と信頼を与え、その積み重ねが保護者との信頼関係の構築に大きく寄与しているものと思われる。 「共に子どもを育むパートナー」としての保護者にいてほしいと向き合っている 本園は保護者を「共に子どもを育むパートナー」と位置付け、日ごろからのコミュニケーションを全職員が大切にしている。また、保護者が抱える不安や悩みを汲みとり、園として何が出来るか、園に何が求められているか、何が必要かを考え、言語化し、整理した上で態勢を整え、日々、真摯に保護者を支援している。自問自答から形を生み出すことは容易なことではないが、本園のベースにある子どもや保護者にいてほしいと向き合う姿勢がそれを可能にしているものと思われる。保護者のニーズに応えるべく日々奮闘する、素晴らしい園であると感じる。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
園はさまざまな地域資源を活用しながら子どもたちの社会性の広がりを保障している 施設内での関わりは、在園児同士、さまざまな職種の職員、決められたクラスや担任など限定的な側面が生じる場合もある。園では人的交流の幅をさらに広げるよう、近隣のスーパーや商店街などを利用して多彩な園外活動を行っている。また、近隣の児童図書館やプラネタリウムを見学したりするなど地域資源を活用している。人とのふれあいや交流の機会を設けたり、子どもたちの興味・関心を引き出すために施設を利用したりすることは、子どもたちの人に対する社会性を引き出すことに繋がるだけでなく、地域全体を「子育て環境」と捉えた取り組みといえる。 園は日常の保育活動を通じて、地域の人々との接点を作る意識を持っている 園の子どもたちの健全な成長、発達には、さまざまな人との豊かな接点が非常に重要だ。特にコロナ禍において園の行事や地域交流が減少したことは、日常の保育に大きな影響を与えた。しかしながら本園は、老人施設への年長児の訪問で歌やわらべ歌を披露したり、運動会で取り組んだ体操を披露するなど交流の接点をつくり出している。また、園長は地域の会合に参加したり、ボランティアとして参加することを実現させたいと考えている。地域に園を知ってもらいさらなる交流に繋がりたいとの思いからである。その積極的な姿勢は、必ず実を結ぶものと期待する。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル①	園の保育に対する情熱と姿勢が職員の意欲と安心感に繋がっている	
内容①	より質の高い保育を行う上で、研修などを受け専門性を向上させることは手段の1つである。園はさまざまな研修や保育ICTツールを活用し、専門性を高めているが、それ以上に注目すべき取組がある。保育ではその専門性を高めるための絶対条件として、人間性が不可欠である。園長は保育に対する情熱と、職員一人ひとりにまるで家族のようなやさしさで接することを心掛けている。そのような親密で、寄り添った関わりが職員のやる気と、安心感に繋がっており、保育の意識の向上と職場への定着に繋がっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保育者は子育ての充実のため子どもの発達に繋がるコミュニケーションを大切にしている	
内容②	日々の生活の一部として、保育者と保護者のコミュニケーションがある。家庭と園をつなぐ情報交換の役割もあるが、保育者は日々のエピソードを積極的に話し、その取り組みを繰り返しながら信頼関係を構築している。園での成長を感じることが子どもの存在を認めることに繋がり、結果的に家庭における養育にも多大なる影響を与えている。保護者アンケートの満足度や相談のコメントからも保護者の高い満足度が伺える。懇談会では集団での発達などをドキュメンテーションで見える化し、さらに保護者同士の良好な関係性の構築にも繋げている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル③	子どもを社会に巣立つ一人の人間として丁寧に向き合い、生きる力を育んでいる	
内容③	本園は、子どもを社会に巣立つ人間としてありのままに受け入れ、丁寧に向き合う保育を実践してきた。保育士の関わりでは、否定的、強い言葉がけをしない。先走ったサポートをせず、子どもが自身で挑戦しながらできたことを認め自信につながる言葉がけを行っている。集団においても、友だちを意識できる集団遊びを取り入れ、一人ではできない楽しさを感じながら、相手の存在をうれしいと思える経験を積み重ねており、この取り組みは、子どもが自己肯定感を持ち、他者も受け入れながら自信をもって前に進もうとする生きる力を育んでいるといえる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園における明確な役職定義、職務分担が一人ひとりの働きやすさとなり、職員の意識の向上と定着に結びついている
	内容	園の運営において重要なことは、ビジョン(方針)を明確にすることで職員一人ひとりの自己効力感を高め、安心して保育に取り組む環境を整えることである。そのような意味では園で明確に定めている役職定義や職務分担は、非常に有効な指標となっている。園長と職員との面談や日々の業務の確認にも活かされ、保育の意識の向上だけでなく、働き続けやすい職場環境の要因の1つにもなっている。さらに特徴的なのは園長の人間性であり、職員一人ひとりに親身に寄り添い、時に励まし支える園長の姿勢は、絶大なる信頼から退職者の減少にも繋がっている。
2	タイトル	園は子育て支援研修を通じて職員と保護者に対して、支援スキルを高めることで子どもの発達保障に繋げている
	内容	子ども一人ひとりのすこやかな成長、発達を保障するためには、園と保護者との協力関係が不可欠である。園は協力関係に加え、子育て支援における共通認識という視点を持っている。職員は子育ての専門家として所定の研修を受講し、専門性を高めている。さらに保護者に対しても子育て研修の受講を進めている。その目的としては子ども一人ひとりを園と家庭の両面から多面的に支えるのに必要な最適解を見出すヒントとするためである。このような取組みは決して当たり前ではなく、非常に先進的で注目すべきものである。今後も更なる向上と取組に期待したい。
3	タイトル	「共に子どもを育むパートナー」としての保護者に全職員が丁寧に向き合い保護者のニーズを受け取めながら実践につなげている
	内容	本園は保護者を「共に子どもを育むパートナー」と位置付け、日ごろからのコミュニケーションを全職員が丁寧に行っている。また、保護者が抱える不安や悩みを汲みとりつつニーズを受け止め、園として何ができ、何を求められ、何が必要かを自問自答し、言語化・整理して実行している。園として自問自答したことを保育面で形にすることは容易ではないが、本園では子どもや保護者に真摯に向き合う姿勢が、これを迅速に形にして実現可能にしている。本園には素晴らしい基礎が出来ており、今後の発展が楽しみである。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子育てにおける現代の社会的な動向を踏まえ、中期並びに長期的な事業計画を見直し、園が目指す質の高い保育の実現に期待したい
	内容	今後の保育の動向や園の役割を踏まえると、中期長期的な計画の立案は困難を極める。誰もが予測できない事案でもあるが、将来を予測し対策を講じていくという意味での中長期計画は1つの道標となることは間違いない。年度ごとの事業計画に加え、3年～5年後の未来を見据え、園が目指す保育のため、どのような計画が求められるのか、またどのような新規事業を生み出すべきかなど多岐にわたる将来像に繋がる計画の立案に期待したい。この取組は結果として園が目指す丁寧な保育の実現や地域に必要とされる園となるための基礎となるはずである。
2	タイトル	園は併設する療育施設との連携をさらに意識しながら、保育との融合を図り、インクルージョン保育の実現を目指してほしい
	内容	本園では、園舎が保育施設と療育施設が併設する形となっていることが最大の特徴である。事業が異なることもあり、生活リズムや活動内容に違いはあるものの、両施設を利用する園児にとっては限りなく負担は少ない。また職員同士の連携や、異なる施設での生活や活動を身近に観察できることは、保育に限らず療育的にも多面的に子どもの発達を促えることに繋がり、子どもの理解を前提とした質の高い支援へと繋がるものである。施設の特徴を最大限に活用することで今後、必要とされるインクルージョン保育の実現に向けて、本園には大いに期待したい。
3	タイトル	重要事項説明書に記された内容を保護者が忘れることも想定し、園として繰り返し理解を求め続ける取り組みと毅然とした対応に期待したい
	内容	本園は入園時に重要事項の説明を行っているが、年月の経過とともに保護者の中には、そこに記されている事項の記憶が薄れることがある。今年度予防接種後の家庭保育について、重要事項に記されているが、接種後に登園していただけるように説明したが、園は保護者の都合を優先して受け入れたケースがあったという。予防接種後は、子どもを安静に保つことで体調の悪化を防ぎ、変化をいち早く察知することを家庭には求めてきたが、子どもの健康を第一に考え、子どもの命を守るために、保護者に対しての毅然とした説明が今後は求められる。